

## ■■見ようと思わなければ、見えない■■

前回C94の会場内で、スリ犯が逮捕されるという一幕があった。多くの参加者はそのニュースに触れて『へー！スリなんて、ホントにいたんだ！？』という印象を持ったのではないだろうか？  
しかし会期中のアナウンスのように、盗撮・スリ・置き引き・釣り銭詐欺といった犯罪行為は、実際に毎回のようにコミケットの中で発生している。

人が多く集まるとそういう不心得者も侵入してくる。単純に人が多い＝犯罪実行のチャンスが大きい、という計算している本来コミケットとは無関係な者もいれば、残念ながら参加者としてもある程度の活動をしながら犯罪行為を犯す者もいるだろう。そういった人々に良からぬ考えを起させないためには、全参加者が他人ごとと思わず常に注意を怠らないこと、見ないフリをしないことが必須なのだ。

先の逮捕劇を機に、彼らに『コミケットでは犯罪行為は非常に困難』だという認識を持たせたい。

### ■光ってますか監視の目■

あらゆる防犯の基本と言えるのが、『できる限り、犯罪行為が成功しなさそうに見せる』というメソッドだ。大きく丈夫な鍵、ガードマンの巡回、警報器や監視カメラなどは、『まず犯罪行為を実行に移させない』ために有用なのだ。コミケットの会場でそれら以上に有効なのが会場中あらゆる場所に居る参加者の目と、注意力だ。自分の荷物に注意を払うこと、周囲の不審行為にも耳目を向けること。全員がこれを行ったら、会場内に犯罪のチャンスも、犯罪者の逃げ場所も存在しないだろう。

#### ①自分に責任を持つ

いかなる場合でも、実際に手を出す者が悪い。これは絶対に、例外は無い。しかし、その結果としてスリ・窃盗・盗撮・釣り銭詐欺などの犯罪行為の被害を被り、貴重なコミケットの1日に不愉快極まりない体験をしなければならないのは手を出された側で、例えば犯人が捕まったとしても、引き換えにできるものではないだろう。だからこそまずはそういう不心得者が会場内外に実在することを知り、『そうは言っても自分くらいは大丈夫だろう』と思わずに常に自分の貴重品、戦利品や周囲に注意を払おう。



#### ②狙われるポイントを知ろう

窃盗にしろ盗撮にしろ、基本的には『隙について』の行為だ。コミケット参加者にはどんな隙があるのか、把握しておこう。周囲を見て、その行為中の参加者が居たら、近くにその隙を伺う誰かが居るかもしれない。その時点でなら参加者側に注意を喚起することで犯罪を未然に防げるのだ。遠慮なく声をかけてよいが、それが難しいようであれば見て見ぬふりはせず、スタッフに一報しよう。

- ・取り出した財布を本を購入する時や買った本をカバンにしまう時などに手近に置きっぱなしにする。
- ・財布や携帯電話等を簡単に取り出せるポケットや手荷物一番上に置いている。
- ・休憩中などに荷物や戦利品の袋を床や椅子の上に置いたまま眠ってしまう。
- ・本や携帯に夢中になるあまりスカートの中が見えてしまうような姿勢で座ってしまっている。
- ・コスプレに着替える際の肌や下着の露出対策が不十分。
- ・特に個人サークルの参加者がスペースを離れる際、卓上をむき出しで放置、貴重品を持参していない。
- ・会話や作業に夢中で自分のスペース上に注意を払っていない。

#### ③自分の守りを固めよう

- ・買い物用の財布を別に分け、財布にはリード（繫紐）を付けてベルトなどに留めておこう。
- ・携帯電話、スマホには大きめのストラップを付け、落としにくく、気付きやすいようにしておこう。
- ・貴重品類はリュック、ポシェットなど直接身につけるバッグに入れよう。座る時も荷物は膝の上に。
- ・スカートで参加する参加者はスカートの長さに関係なく、防寒も兼ねてスパッツなどを着用しよう。
- ・コスプレに着替える際の肌や下着の露出対策が不十分。
- ・スペースを離れる際には必ず両隣のサークルに声をかけ、頒布物を引き上げるか卓上に布等をかけて。
- ・朝左右前後のサークルと挨拶を交わし、スペース中に誰か入る際にも声をかけ、連携して島中や周辺に不審な人物が入り込んだり、スペースの盗撮、居座り、万引き等の行為をさせないように注意する。